



協力会だより

第48号

発行 山梨県立考古博物館協力会

発行日 令和7年6月1日発行

ホームページ www.y-kyouryokukai.jp/

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923

電話 055-266-3881

FAX 055-266-3882



県内研修：ふじさんミュージアム



ボランティアガイド研修②



県内研修：北口本宮富士浅間神社

R6年度 主な活動

- ・令和6年度考古博物館協力会総会 (4/13)
- ・ミュージアムショップ (4～3月)
- ・ボランティアガイド (5～3月)
- ・学校勾玉作り・火起こし体験補助 (5～12月)
- ・こどもまつり (5/3・4)
- ・常設展移設作業 (9/21・22)
- ・第41回特別展「縄文時代の不思議な道具」 (9/28～11/24)
- ・秋のふれあいまつり (10/13)
- ・常設展復旧作業 (11/30・12/1)
- ・県民の日イベント「ふしぎな JOMON」 (11/20)
- ・考古博 de お正月 (1/2・3)
- ・古代米でもちつき大会 (1/13)
- ・考古博 de 春まつり (3/9)

R6年度 研修・勉強会

- ・勾玉作り・火起こし研修 (4/14・18)
- ・春季企画展勉強会 (4/25・5/5)
- ・ミュージアムショップ研修 (4/25・5/5)
- ・ボランティアガイド研修① (5/19・25)
- ・夏季企画展勉強会 (7/19・21)
- ・自主勉強会 (8/3)
- ・ボランティアガイド研修② (8/23・25)
- ・特別展勉強会 (9/27・10/12)
- ・県内研修 (12/15)
- ・ボランティアガイド研修③ (2/13・15)

令和6年度の活動・研修・勉強会の記録

令和6年度 協力会総会

令和6年4月13日（土）、風土記の丘研修センターにて山梨県立考古博物館協力会総会が行われました。令和6年度は、88名の会員でスタートしました。

今年度から曜日班ごとに座席を設定しました。一緒に当番活動をする方とお話ができると好評でしたので、次年度以後も続けていきたいと思います。

総会では、新たにボランティアガイドになられた7名の方と、ガイドマスターになられた1名の方に、ガイド証が渡されました。

また前年度たくさんご協力いただいた会員10名の皆様に、出労感謝記念品としてミニ銅鐸「邪視文銅鐸」をプレゼントさせていただきました。



【体験補助研修(勾玉作り・火起こし)】4/14・4/18



体験することによって、難しいところや作業のコツを知り、声のかけ方や補助の仕方を学びました。

【春季勉強会】4/25・5/5 「重要文化財指定25周年記念 一の沢遺跡出土品展」の解説を聞きました。



【こどもまつり】5/3・5/4 今年度も多くの方にご協力いただきました。



【ガイド研修】①5/19・5/25 まず、常設展の展示物と古墳について、座学で学びました。



②8/23・8/25 座学で得た知識を、実際に展示物を見たり、古墳を訪れたりして確かめました。



③2/13・2/15 学芸員や先輩ガイドのアドバイスを受けながら、展示解説を行いました。



【夏季勉強会】7/19・7/21 「呪い(まじない)の世界」は、季節感もあってか、大好評でした。



【常設展移設作業】9/21・9/22

【復旧作業】11/30・12/1



【自主勉強会】 8/3

【県民の日イベント】 11/20

【春まつり】 3/9



第 41 回特別展 「縄文時代の 不思議な道具」

令和 6 年 9 月 28 日(土)～11 月 24 日(日)の期間、第 41 回特別展『縄文時代の不思議な道具』が開催されました。

縄文時代には、土で作られた土器、石で作られた石器、木で作られた木器、骨などを使った骨角器などの道具が使用されていました。それらの中には、ミニチュア土器、奇妙な形の石器、動植物を模した土製品、大小様々な形の石棒など、何に使われていたのか分からないものがあります。土器や土製品の中には、とても丁寧に作られたものもあれば、簡単に作ったものもあります。石器の中には、擦ったり叩いたりした痕跡や、意図的に破壊した痕跡が残るものもあります。こうした道具類は、後期から晩期にかけて多く見られ、本県ではあまり見られないものもあります。今回の特別展では、このような不思議な遺物を一堂に集め、その用途に思いを巡らせながら、わたしたち現代人が考える道具の概念と異なる、縄文の人々の豊かなイマジネーションの世界を感じ取っていただきました。

52 日間の会期中、県内外から多くの方にご来館いただき、6,000 人を超える入館者がありました。協力員のみなさまには、長期間にわたる当番活動にご協力いただき、感謝いたします。

【特別展勉強会】 9/27・10/12



金生遺跡のジオラマも姿を現しました。



県内研修 12/15 ふじさんミュージアム 北口本宮富士浅間神社

【協力員さんの研修記】

例年、現地集合・解散という形で実施していた県内研修ですが、今回は貸切バスを使用して富士吉田市の「ふじさんミュージアム」と「北口本宮富士浅間神社」を訪れました。どちらも世界文化遺産の構成資産となっています。

協力員 17 名、事務局員 2 名、計 19 名が参加しました。

♪・・・♪・・・♪・・・♪・・・♪・・・♪・・・♪・・・♪・・・♪

棚 月美さん

美しい富士山に迎えられて「ふじさんミュージアム」に着きました。VR シアターでは迫力ある映像で富士山を十分に体験しました。信仰の山の歴史を改めて勉強しました。

浅間神社は、元は諏訪神社で地主神社であったこと、武田信玄が再建した社殿が現存する最古のものであることも知りました。

昔から多くの人に信仰の山として愛され親しまれてきた山ですが、帰りのバスの中で火山であることを改めて思いました。

小方 愛江さん

楽しい研修旅行で、天気も良く暖かい日でした。最初に行った「ふじさんミュージアム」も素晴らしく、富士山登山を映像で体験しました。何十年前に登った時のことを思い出しながら、一生懸命見させて頂き、登山も 12 分で登り切りました。

次に「北口本宮富士浅間神社」に行きました。どこを見学しても素晴らしく綺麗でした。野代課長さんが事細かく説明してくださり、良かったです。

とても素晴らしい研修旅行でした。帰りにはお弁当も頂き、ありがとうございました。

加藤 浩さん

県内研修旅行が 20 名弱の人数で行われた。この機会に他曜日の協力員との交流ができるかと期待したが、交流の機会はなかった。少し残念。バスの中からの遺跡発掘の説明は良かった。けれど場所が良く分からない。次回は発掘遺跡回りもよいと思う。

「ふじさんミュージアム」は 2 回目であったが、今回の御師展示は良かった。浅間神社の参拝も新年の詣出の気分が出来た。天気も良く、気温は低かったが寒くもなく快適であった。

弁当もおいしく頂いた。職員の方々に感謝です。



宮城 栄子さん

協力会県内研修に参加させていただきました。雲ひとつない快晴の冬空、御坂峠を越えると世界遺産「富士山」が見事な姿を見せてくれました。

まず「ふじさんミュージアム」を富士吉田市の布施課長さんの解説で見学しました。360 度に映る VR シアターは、某有名テーマパークの最新アトラクションのような迫力があり、大画面いっぱいの富士山の四季を視覚と嗅覚で体験できました。マスクを外し、広がる香りに包まれながら、富士の登山道を「富士は日本一の山」と歌いながら歩く自分の姿を想像しました。信仰の対象や芸術の源泉としての歴史を理解し、唯一無二の美しい姿を人の手を加えることなく次世代に伝えていきたいと強く感じた時間となりました。

続いて、富士山の構成資産のひとつである「北口本宮富士浅間神社」へ。境内を博物館の野代課長の案内解説を聞きながら回りました。右手奥の諏訪神社が地主神であったこと、奇祭で知られている火祭りももとは諏訪神社の祭礼であったことなど、歴史の中に埋もれていく事実を掘り下げてくださるお話の数々に、考古学の面白さを感じました。

知っているようで意外に知らない「富士山」について多くの学びを得る時間となりました。ありがとうございました。

渡辺 俊夫さん

今回の研修は久しぶりだったので、心待ちにして参加しました。静岡や山中湖へは何度か訪れたことがありますが、「ふじさんミュージアム」や「北口本宮富士浅間神社」には立ち寄る機会がありませんでした。しかし、今回の訪問を通して、これらの場所の持つ独自の魅力に触れることができました。

当日は気温が氷点下になるということでしたが、前回参加した時の方が寒かったように感じました。現地へ向かう途中、野代課長から中道延暦寺や六角堂、小山城、黒駒戦闘、坊ヶ峰などの歴史や地域の話をつきながらの移動は非常に興味深く、あっという間に感じました。聞いたことのある話や、初めて知るエピソードが交錯し、記憶が鮮やかに蘇るひとときでした。

「ふじさんミュージアム」では布施課長から繊維産業や生糸の話をつきました。富士吉田の産業の奥深さとその魅力を再認識する良い機会となりました。繊維産業がこの地域に根付いている背景には、長い歴史と人々の努力があることを改めて感じました。「北口本宮富士浅間神社」には初めて訪問しましたが、気温が低い分空気が一層澄んでいて、深い静寂に包まれることで心がずっと軽くなるような感覚になりました。冬の厳しい寒さが、逆に神聖な雰囲気を一層引き立てているように思いました。夏に訪れたらまた違った趣があるのだろうと想像しました。

また、「ふじ」という言葉には、不二や富士など様々な意味が込められていることに驚きました。富士山という存在が、単なる美しい景観としてだけでなく、人々の心の支えとなり、精神的な象徴であることを実感しました。長い年月をかけて培われた地域の歴史や文化が、富士山を中心に広がっていることを改めて感じました。

現地で課長たちの専門的な話をじっくりと聞くこともでき、非常に充実した時間を過ごすことができました。有意義な研修になったと思います。



内藤 敏夫さん

快晴、無風、日陰はちょっと寒かったけど、富士山を裾野からしっかりと見ました。知っているようで意外と知らない、高さ日本一の「富士山」と二番の「北岳」が山梨県に所在することを……。

「ふじさんミュージアム」は富士吉田市教育委員会の布施歴史文化課長、「北口本宮富士浅間神社」は野代学芸課長から解説を頂きました。

1.7 万年以上前から噴火を繰り返しながら変貌してきた富士山。信仰の歴史は縄文時代中期まで遡ると言われます。富士宮市千居遺跡や都留市牛石遺跡の環状配石遺構が富士山を意識した配置となっているのではないかとわれ、人々が富士山を見ながら現代に至るまで様々なこの山に特別な感情を持ち続けているのではないのでしょうか。富士山にまつわる説話は数多くありますが、万葉集に歌われた「甲斐の黒駒、鞍着せば……」を思い出します。各地方では献上のための馬が飼育されていました。甲斐国から献上された馬は特に名声が高く、ある時名馬である甲斐の黒駒に鞍を載せて聖徳太子がまたがったところ、黒駒は急に走り出し、故郷を案内するかのように富士山をひとつ飛び、甲斐の国から信濃の国、北陸地方を経て京の都に戻ったという話があります。また、「富士山の神はかぐや姫・蚕の神」と竹取物語にはもう一つの筋書きがあったようです。肩が凝らない和やかな物語……。

協力会の研修旅行の機会を通して、すぐにも行けそうで行けなかった場所で学習ができ、参加者の皆さんとも懇親を深めることができました。今回参加できなかった会員の皆さんも、機会があれば見学されることをお勧めします。研修にあたり準備をいただいた事務局の皆さんに感謝いたします。次回の研修も楽しみにしています。

河野 尚子さん

数十万年前に噴火を繰り返してできた三つの火山が重なり、1 万年ほど前に現在の形になったといわれている富士山。以来、縄文時代からの人々の暮らしと変化を共に過ごしてきたと思うと感慨深いです。なぜ私たちはこんなにも富士山を見るたびに何度でも感嘆の声をあげるのか、納得してしまいます。

「北口本宮富士浅間神社」は厳かで立派でしたが、日本武尊が立ち寄ったとされる大塚丘の鳥居は意外に地味なものでした。

「ふじさんミュージアム」は誰でも楽しめると思いました。また、道中の小さな山の説明も楽しいものでした。

**大久保 長仁さん**

「ふじさんミュージアム」では、富士山信仰に関する資料を展示するとともに、富士吉田市域の構成資産や常に富士山と共に歩んできた本市の歴史・民族・産業を紹介しています。ふじさん VR シアターは、迫力ある高精度な映像を 360 度に映し出し、立体感と没入感を感じられました。

人はなぜ富士山に引きつけられるのか。富士山はなぜ信仰の山になったのか。関東では養蚕が盛んであったため、蚕が無事に育つことを願って人々は富士山の神を信仰していました。登山者の多くが養蚕守護を祈願しました。富士山信仰が豊蚕への願いでもあったことを今に伝えています。やがて仏教が伝わると、死者の魂が岩肌や樹木の間をぬって山を登っていく様子を六道（輪廻思想で死後に出会うとされる 6 つの世界）になぞらえ、最後は山頂で仏になるという信仰が生まれました。その結果、山は神と仏と一緒に住む霊山として信仰のために登る山となりました。

平安時代の頃に山岳信仰が普及し、登山を実践して修行する修験道が各地に広まるとともに富士講が出現し、発展するにつれ、御山に登ること即ち祈りとする「登拝」によって、人々は山頂を目指すようになりました。このように古くから人々の心には富士山への畏敬の念が存在していたようです。

「北口本宮富士浅間神社」は、1900 年の由緒を持つ神社で、日本一の大鳥居、樹齢千年の杉、左右に老杉の迫る参道に立ち並ぶ石塔など、長い参道を通り過ぎて本殿を参拝しました。武田信玄が再建した社殿（東宮本殿）、下諏訪神社、富士登山道の入り口である霊験あらたかな神社なども参拝しました。

丹澤 恵美子さん

12 月 15 日（日）朝、車のエンジンをかけると外気温は-3℃の表示。寒いわけだと思いながら、これから行く研修地富士吉田の寒さはどのくらいだろうと少し不安になりました。

考古博物館を出発したバスは、御坂路を越え一路富士吉田へと進み、車窓からは雪をいただいた雄大な富士の姿が見えました。富士山が全く見えない地域に暮らしている私は、裾野までしっかり見える富士の姿に大感激し、寒さの不安は吹き飛んでいました。

最初の研修地は「ふじさんミュージアム」。富士山に関する迫力のある高精密な映像を 360 度に映し出す VR シアター。少し映像酔いもありましたが、立体感と没入感が感じられ、自分自身が富士山に登っているようでした。（私は富士山に登ったことはないのですが。）館内には富士山信仰に関する様々な資料が展示しており、世界文化遺産の中核をなす富士吉田市域の構成資産や、富士山とともに歩んできた市の歴史・民族・産業が紹介されていました。

次の研修地は世界文化遺産「富士山」構成資産、「北口本宮富士浅間神社」です。河口湖畔に仮宿していた 40 数年前には何回も訪れた神社ですが、最近に行く機会もなく久しぶりでした。境内を回りながら野代課長さんから詳しい説明をお聞きしました。諏訪神社がなぜそこにあるのかも今回知ることができました。

半日の研修でしたが天気にも恵まれ、有意義な時間を過ごすことができました。研修を企画・運営してくださった事務局の方々に感謝いたします。

笹本 弘司さん

朝は寒い!!BUS は暖かい!!8 時 10 分に考古博物館第 1 駐車場に集合し、BUS にて出発しました。今回の県内研修で改めて知った、富士吉田市の構成資産の 2 力所を訪れました。

富士山は平成 25 年（2013 年）6 月にユネスコ世界遺産委員会によって「富士山-信仰の対象と芸術の源泉」として世界文化遺産に登録されました。世界遺産は「文化遺産」「自然遺産」「複合遺産」の 3 種類に分類されます。この中で富士山は「文化遺産」として登録されました。富士山の世界遺産登録は山そのものだけではなく、湖や神社、遺跡などが合わさって世界遺産となっています。富士山は、山梨・静岡両県にまたがり、信仰や芸術に関係ある文化財が広い範囲に分散しています。富士吉田市においても構成資産は 5 件所在しています。富士山の世界文化遺産の登録にあたり、その歴史文化が高く評価されました。富士山は、その山容の美しさから古来より神仏の山として崇められてきた「富士山信仰」という山岳に対する固有の文化的伝統を表す証拠であることを示している信仰の対象としての価値、富士山の美しい姿が浮世絵などの多くの芸術作品の題材とされ、日本及び日本の文化を象徴する記号として広く海外に定着したように、顕著な普遍的意義を持つ芸術作品との直接的・有形的な関連性を持つという芸術の源泉としての価値が認められて世界遺産に登録されました。

上記内容の背景を理解しながら、「ふじさんミュージアム」を見学しました。ふじさん VR シアターは、富士山に関する迫力ある高精細な映像を 360 度に映し出し、立体感と没入感を感じられる体感コンテンツでした。とても素晴らしく、ミュージアムを訪れる方は必見です。「富士登山の今昔」「江戸時代の御師町のにぎわい」「富士山信仰の起源と変遷」「富士山昔話」などの展示がありました。

北口本宮富士浅間神社の歴史は、人皇第 12 代景行天皇の皇子である日本武尊が、景行天皇 40 年に天皇の命を受けて東国を平定した帰路に当地で休んだときに、神社の南西 350m の所にある大塚丘に登り、富士山を遥拝したことに始まるとされます。その後、里の人々が鳥居を建立し、大塚丘に祠を建立し、富士山の山霊を明神と称し、日本武尊と合わせて祀ったとされます。その後延暦 7（788）年に、甲斐の守紀豊庭朝臣が、現境内地へ新たに社殿を建立して浅間明神を祀り、大塚丘には大塚社として日本武尊を祀ったのが、現境内地の始まりとされます。また、15～16 世紀になってから、富士山信仰が広がり、多くの富士登山者が訪れるようになり、北口本宮富士浅間神社は登山道の起点として大勢の人を迎えるようになります。明治時代になると廃仏毀釈運動により、境内にあった仁王門などの仏教施設が全て撤去されますが、多くの社殿群は大切に守り継がれています。

社殿に続く参道は周りに木々が生い茂り、日差しを遮ります。冬はとても寒さを感じましたが、静寂の中に荘厳さも感じました。また、地主である諏訪神社が今も社と共に守られていることに感心しました。社殿社務所では御朱印もいただきました。

今回「ふじさんミュージアム」と「北口本宮富士浅間神社」を訪問することにより、富士吉田にある世界遺産の遺物や関連施設を見学することができ、大変勉強になりました。見学に際し、解説をしていただきました皆様に感謝いたします。ありがとうございました。今後とも今回のような企画をお願いします。

志村 涼子さん

富士吉田市歴史民俗博物館には学生時代に行ったことがありますが、ふじさんミュージアムとしてリニューアルされていたことを最近知り、ぜひ行ってみたいと思っていました。富士山信仰や富士山と関わる富士吉田の歴史、富士山の噴火や四季について、展示資料だけでなく映像や CG、プロジェクションマッピングで紹介されていて、富士山の魅力を感じることができました。特に VR シアターは圧巻の映像で、自分もその場にいるような感じになりました。

北口本宮富士浅間神社では、富士山信仰にまつわる神社の歴史を詳しく学ぶことができ、趣味の一環である神社仏閣巡りを楽しむことができて満足でした。いつか歴史と自然を楽しみながら、1 合目から富士登山をしてみたいと感じた研修でした。



村松 暢子さん

県内研修はバス乗車後すぐに野代先生が車窓から見える遺跡についていくつも解説してくださいました。勝山城や小山城など、機会を見つけて近くに行ってみ学してみたいと思います。

お話を聞いている間に「ふじさんミュージアム」に到着。予定より早く到着したので、富士山をバックに集合写真をパチリ。その後、ミュージアムを見学しました。2015年にリニューアルオープンしたとのことで、天井が高くきれいな施設でした。（考古博もぜひリニューアルを目指してください。）概要を説明していただいた後、各人興味のあるところを見学。浅間神社の事前学習としてシアターを観たり、企画展の「甲斐絹をよむ 蚕」を見たりしました。

次は「北口本宮富士浅間神社」。野代先生が発掘した場所や遺物などから、浅間神社の建立された時期や、大和朝廷が地元の信仰を残す形をとっていたことなど、興味深いお話を伺うことができました。

あっという間の研修でした。考古博物館への到着後のお弁当もおいしくいただきました。来年度もボランティアを継続して研修にも行きたいです。スタッフの皆様、ありがとうございました。

田丸 進さん

「ふじさんミュージアム」と「北口本宮富士浅間神社」を訪問しました。

「ふじさんミュージアム」では、富士山信仰の基に養蚕があることを学びました。

「北口本宮富士浅間神社」では、神仏混交時代の名残を見られる遺構があり、神社の歴史と共に信仰の変遷も見ることができ、勉強になりました。

短時間の滞在でしたが、多くの外国人が見られました。それぞれの母国に、日本の良さを伝えてもらえればと思いました。

**渡辺 ひとみさん**

昨年、研修で「ふじさんミュージアム」と「北口本宮富士浅間神社」を訪れました。当日は快晴で、雄大で美しい富士山を見ることができ、とても感激しました。

「ふじさんミュージアム」では「富士山はなぜ信仰の山になったのか」などについて、「北口本宮富士浅間神社」では神社の歴史などについて学ぶことができました。

今まで知らなかったことについて学び、自分の知識を広げることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。お弁当が豪華で、とても美味しかったです。

北村 正仁さん

世界遺産でもある富士山。その中心的な山が目の前にそびえ立ち、バスから降りた参加者は声を上げた。そこは「ふじさんミュージアム」の駐車場。県内研修の第一会場だ。

私たちは開館少し前に入場し、係の案内でまず立体映像の室に入った。6面に映る富士遺産の雄大なパノラマ映像に驚いた。その後、館内のテーマルームを見学。富士山の大パノラマに驚きつつ、木花開耶姫命（このはなさくやひめのみこと）を神として崇め、かつては養蚕の守護神としての信仰が、今では観光のシンボルとなっていることを学んだ。

次に訪れたのが、その神を祀る「北口本宮富士浅間神社」だ。長い参道を歩き、富士山の荒ぶる神を鎮める神社の一つでお参りができた。

半日の研修でも物足りなさを感じながら帰路に就いた。お弁当をいただき解散となったが、惜しむらくは参加者が少ないこと、すなわち、もう一つ魅力がないのかなと思い、次回の反省につなげたいと思った。

協力会の活動を振り返って...

【協力員さんの活動体験記】

加藤 浩さん「発掘体験」

考古博物館の協力員になって4年目になる。展示されている発掘された土器類を見て過去に思いを馳せるボランティアの時間は、楽しい時間になっている。しかしどのように埋もれているのか、どのように発掘するのが気になっていた。「発掘体験をしてみたい」と学芸員に相談すると、「ハローワークに行けば」との返事であった。しばらくすると「発掘体験の催し物がある」と教えてくれ、早速申し込んだ。アイメッセの傍のインターチェンジを新しく作る場所での発掘であった。時代は信玄の時代より前の物ということで参加した。

すでに地表60センチくらいユンボで掘ってあり、遺物の出たところには串が刺してあった。真夏の暑い日だったが、テントの下で扇風機の風を受けながらの作業。15分やって休んで15分の作業であった。手カンナと移植ゴテで表面を薄く削るようにして遺物を探す。土器の破片を5個ぐらい見つけた。宝物探しのようで楽しい。この体験を博物館の来訪者に聞かれたら話ができると思った。考古学に興味のある方は是非体験されて展示物を見てもらいたいものである。



かみつけの里博物館ボランティア団体へのガイド

村松 暢子さん「初体験いろいろ」

今年度は通常の博物館の当番活動に加えて、特別展の展示替え補助と風土記の丘での体験活動の補助、そしてガイドのお手伝いに参加しました。

展示替えは学芸員の先生方の指示に従って展示物を移動します。重要文化財の遺物を扱うのでドキドキしました。様子見のため半日の参加でしたが、間近にそして触れられる貴重な体験ができたので、次は1日にしたいと思います。

風土記の丘の体験活動の補助はやってみたかったのですが、方法が分からず放置していました。たまたま博物館当番で一緒にいたKさんに誘われて参加しました。染め物、土鈴、縄文土器を作りました。事前に練習するので初めてでも無理なく補助できました。

ボランティアガイドは3回の研修を経て資格証はいただきましたが、まだまだガイドをする力はなく、学芸員の先生の説明を聞きながら、学生さんたちの後方でお手伝いしました。説明を繰り返し聞くことで自分自身が勉強してガイドができるよう努力していきたいと思いました。来年度からも活動に参加していきます。

藤原 尚美さん

今年度は、地区自治会の役員を引き受けることになり、その後地域や自治会の行事と重なることがあり、博物館での研修会や体験活動補助には数回しか参加できませんでした。しかし、博物館で何回かあった夏休みと特別展の当番活動には参加することができました。

そんな中、特別展の当番が11月20日の県民の日にありました。この日は入館料が無料となるため、当日の担当のほとんどがショップ当番でした。県民の日のイベントに多くの方が来館し、いくつかのブースで行われた体験に親子で楽しんで参加している様子を目の当たりにしました。積極的に参加している様子を見て、考古学に興味を持つ子どもたちが多くいることを実感しました。中にはガチャガチャで出てきた土器や土偶について説明してくれたり、「これは何か」と質問をしてきたり、ショップ店頭に並ぶ黒曜石が切れるかなど聞いてくる子どももいて頼もしかったです。

協力員としての活動には多く参加できませんでした。歴史に関心を持ち常設展や特別展を見に来たり、イベントなどに足を運び意欲的に参加する人たちを見て、今後も増えてほしいと思いました。

今年度も多くのみなさまのご支援とご協力により、無事にイベントや展示会を終えることができました。心より感謝申し上げます。協力員のみなさまの熱意と献身により、多くの方々に考古博物館を楽しんでいただくことができました。来年度も、当館の魅力を伝え、山梨の文化と歴史のすばらしさを共有していけるよう、新会員の方々とともに充実した活動を進めていきたいと思います。(わ)



印刷：株式会社峡南堂印刷所